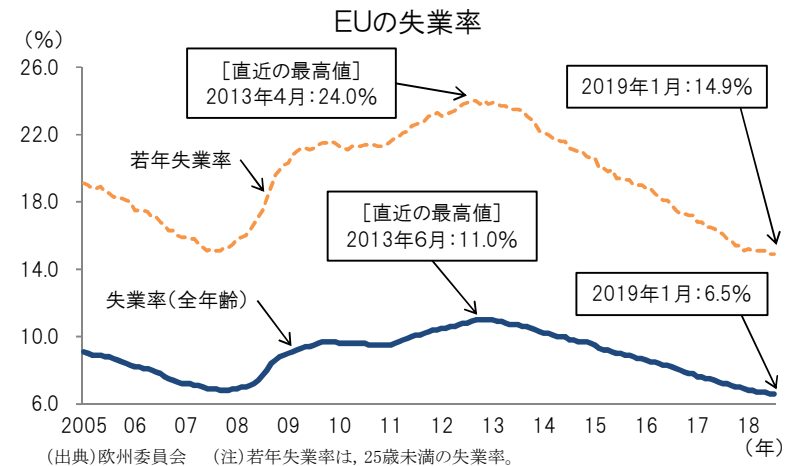
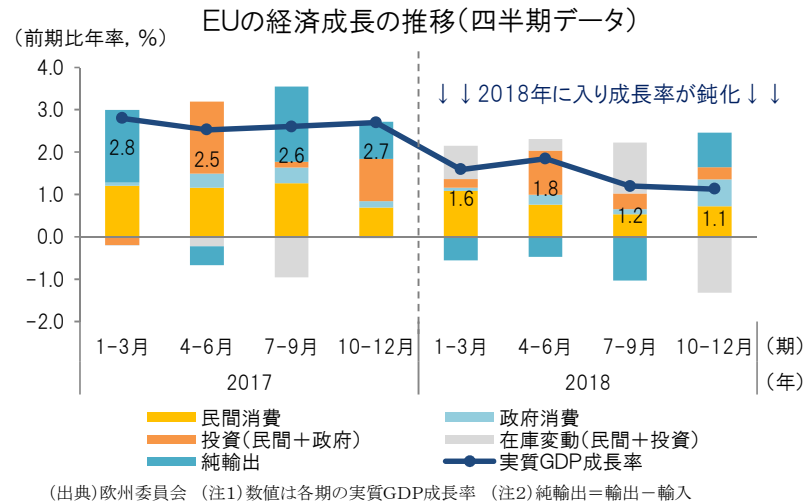


【現状】 EU経済は、2013年から6年連続で景気回復を実現。他方、2018年は、外需の不振や各国特有の問題の影響等から経済成長のペースは減速。

【先行き】 雇用環境等のファンダメンタルズは依然堅調であるため、先行きも景気の回復基調は続くと見られるも、世界経済の鈍化や消費者・企業マインドの悪化等を背景に、今年の経済成長率は更に緩やかとなる見込み。

【リスク】 通商政策における更なる緊張の高まりや、英国のEU離脱を巡る不確実性、中国経済の更なる減速といった景気下振れリスクに注意が必要。



2018年の主なマイナス材料

- 世界経済の鈍化に伴う外需の不振
 - 英国のEU離脱、緊張状態にある通商関係などを巡る不透明感
 - 各国特有の問題(ドイツの自動車生産の混乱、フランスの社会抗議活動、イタリアの財政運営の転換など)
- ⇒ これらの影響が、2019年の経済見通しにも一部波及
(世界経済は引き続き弱く、消費者や企業のマインドは低調)

